

会長に就任して

慶應義塾大学病院
三宮 敏和



昨年（平成20年）の第23回関東地方会総会において、会則の一部が見直され承認された。

会則が成立し、発効されたのが第2回総会（昭和60年6月22日）である。発効当時より会則第3章・役員においては、会長と代表幹事という組織体制で運用してきたが、会長は1年ごとに総

会を開催し、次期会長にバトンタッチしてきた。今まで会長といっても実際には大会長であり、運営の基盤は代表幹事とその任にあたってきた。会長職という重責者が、1年ごとに氏名が代わるのは対外的にも好ましくないとの判断と、役割をきちんと分担する必要から、会則を見直した。そのようなことで、本年3月に行われた幹事選挙で任命された新幹事における互選で、会長をお引き受けすることになり、5月12日に開催された第24回総会で承認を受けました。関東地方会を苦勞して立ち上げました先達の諸先輩そして継続してこられました役・委員の諸兄に改めて感謝と慰勞の意を表すと同時に、今後本会が益々発展し、会員に少しでも知識と技術という利益が持たされるよう、新体制のメンバーと協力して重責を果していく所存です。ご支援ご協力のほど、よろしくお願い致します。

さて、5月12日に開催されました第24回関東地方会は、小野寺敦会長・阿内謙吉実行委員長以下委員のすばらしい企画と実行力によって、192名もの参加者を得て盛会裡に終了することができました。会員諸兄並びにご協力頂きましたメーカー各位に改めて御礼申し上げます。平成20年第25回開催は、第1回総会が行われた茨城県で、その時の実行委員長を務めました畠山 六郎氏（茨城県立医療大学）が大会長を務めます。茨城県開催は何と24年ぶりになります。更に次年度、第26回は横田 憲一氏（長野市民病院）を大会長として、長野県で初めて開催することが決まりました。両県とも数名の会員しかいませんが、この数名が本会発展のため熱意を持って引き受けてくれました。学会や研究会、本会のような地方会そして一般社会においても個々のアイデンティティの捉え方は皆違いますが、一つの山頂を目指した時、幾つものルートがあってもいいと思います。本会の会長としてその手助けが少しでもできますよう、お手伝いさせていただきます。両県での総会が成功するよう、会員の皆様のご協力をお願い致します。

平成20年、第28回日本核医学技術学会総会学術大会（大会長 三宮）は、第48回日本核医学会学術総会（会長 放医研・米倉先生）とのジョイントで開催します。

開催日は2008年10月24日（金）-26日（日）です。会場は幕張メッセ（千葉市）。テーマは「協調と融合の夜明け」-分子からヒトへ-です。宍戸敏彦実行委員長（稲城市立病院）の下、実行委員会が鋭意準備を進めていますが、何分にも初めての試みです。何かと課題も多く検討・調整することも多々ありますが、テーマの如くこれからの新しい学会クラスターの始まりとして大いに提案し、検討して行きたいと思っております。

関東地方会ならびに各都県研究会の絶大なるご協力をお願い致します。

関東地方会は本年度より、新体制で活動していきます。会員皆様のご指導ご鞭撻をお願いし、会長就任の挨拶とさせていただきます。